

防犯 最前線

第17話

野方友愛クラブ自主防犯部



見守り活動に参加する会員たち＝野方公民館で



児童に声をかけて見送る

安全安心と食育に力

野方地区で2010年から始まった高齢者たちによる防犯と交通安全の見守り活動が地域を明るく照らしている。活動日は毎月10日、20日。野方友愛クラブ（東西会員数計243人）に自主防犯部を組織し、西小の児童たちを熱心に見守っている。

「おはよう。気を付けて行つてらっしゃい」。秋風が心地よい10月10日、25人の会員が手分けをして、児童たちの集合場所から学校までをついて歩いた。東西を走る県道名古屋豊田線は特に交通量が多く今年7月、1台のダンプが水路の橋にぶつかる事故があった。代表の市川義行さん(76)は「横断歩道や狭い道を通る車にも目を配っている。子どもたちの通学路なので安全運転に心がけて」と訴える。

野方地区はとにかく広い。天白川や折戸川が流れ、旧野方村だった地区中央のほとんどもを農地が占め、周辺に住宅が多い環境が特徴だ。自治組織は野方町のほか、藤塚や折戸・浅田・梅森・岩崎各町にまたがる。新旧住民が融合して友愛クラブの活動を盛り上げて

いる。浅田町上納に住む柚木敏春さん(68)は日進市内の企業で働いたことをきっかけに移り住んだ。「土着の方も心が開かれていてご縁を感じる。小さな地域でも生き生きとしている」と実感を込める。

同クラブは見守り活動を続ける一方、2012年1月、野方神明社奉賛会を設立した。目的は子どもたちへの食育だ。約1300㎡の水田を借りて、毎年地元親子らを対象にもち米の田植えや稲刈りを指導している。今年も会員らは餅つき作業にひと汗流し、秋祭りの餅投げで大勢の人たちに振る舞った。11月に古民家・旧市川家住宅である「餅つき体験会」に続き、来年3月には「区民餅つき大会」を開いて世代交流を深める。

市では香久山と野方などを結ぶ都市計画道路野方三ツ池線整備を計画している。市川さんらは「幹線道路が通れば行き来も便利になって街らしくなる」と期待を寄せる。そして、こう願いを語る。「子どもたちの元気な姿は私たちの生きがい。地域の交流を盛んにして全体の安全安心につなげたい」(広)

全老連「活動賞」を受賞

野方友愛クラブが見事、今年度の全国老人クラブ連合会の「活動賞」を受賞しました。もち米づくりや四季折々の行事を通じた活発な世代交流が高く評価されました。

野方東の市川太会長(73)と野方西の羽地功男会長(70)は、「地道な活動が評価されてうれしい。長く続けていきたい」と萩野幸三市長に喜びを報告しました＝写真。

